

## 第2回第13採択地区教科用図書採択協議会

### 会 議 録

日 時      平成29年7月21日（金）  
             13時00分～14時00分

会 場      東松山市総合会館4階 多目的ホールB

## 第2回第13採択地区教科用図書採択協議会会議録

日時 平成29年7月21日（金） 13時00分～14時40分

場所 東松山市総合会館4階 多目的ホールB

### 出席者 委員

|                 |                      |
|-----------------|----------------------|
| 中村 幸一（東松山市教育長）  | 松本 邦文（東松山市教育長職務代理人）  |
| 小澤 正司（滑川町教育長）   | 横塚 元幸（滑川町教育長職務代理人）   |
| 永島 宣幸（嵐山町教育長）   | 山田 朋美（嵐山町教育長職務代理人）   |
| 小林 和夫（小川町教育長）   | 茶原 桂子（小川町教育長職務代理人）   |
| 船戸 裕行（ときがわ町教育長） | 西澤 明彦（ときがわ町教育長職務代理人） |
| 関口 充（鳩山町教育長）    | 山口 尚人（鳩山町教育長職務代理人）   |
| 中村 正宏（川島町教育長）   | 菊池 建太（川島町教育長職務代理人）   |
| 久保田幸夫（吉見町教育長）   | 松本 晃（吉見町教育長職務代理人）    |
| 根岸 敏夫（東秩父村教育長）  | 高田 長子（東秩父村教育長職務代理人）  |

### 事務局・事務担当者

関口 敬氏（東松山市教育委員会教育部次長）  
吉岡 武志（東松山市教育委員会学校教育課長）  
久保田慶一（東松山市教育委員会指導主事）  
橋本 慎也（滑川町教育委員会指導主事）  
溝上智恵子（嵐山町教育委員会指導主事）  
寺井 貴弘（小川町教育委員会主任指導主事）  
佐藤毅一郎（小川町教育委員会指導主事）  
羽太 高裕（ときがわ町教育委員会主任指導主事）  
松宮 隆広（鳩山町教育委員会指導主事）  
向後 正隆（川島町教育委員会指導主事）  
齊藤 浩正（吉見町教育委員会指導主事）  
笠間 利恵（東秩父村教育委員会 主任）  
久保田敏也（東松山市教育委員会学校教育課指導員）

進行：東松山市教育委員会  
吉岡学校教育課長

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 1 開会          | 第13採択地区採択協議会副会長 |
| 2 あいさつ        | 第13採択地区採択協議会会長  |
| 3 日程説明（資料の確認） | 事務局             |

## 日程

- (1) 専門員の報告：全ての発行者について、教科用図書の特徴を述べ、理由を含めてこの地域にふさわしい複数者を報告。
- (2) 質疑：採択委員より専門員代表者に質問。
- (3) 協議会委員による協議：報告のあった種目について、協議。
- (4) 選定：本協議会規約第 11 条の 1～4 項に従い選定。
- (5) 選定結果の発表：議長から結果を発表。

## 資料

- ・ 本日の次第
- ・ 専門員による教科用図書研究の結果報告
- ・ 小学校教科用図書（特別の教科 道徳）研究の結果
- ・ 県の参考資料「小学校用教科用図書（道徳科）調査資料」
- ・ 教科書展示会アンケートより保護者・一般の意見・感想をまとめたもの
- ・ 教科書見本

## 4 協議 菊池会長

### 【議 長】

本日の会議については、採択会議規約の第 10 条により、公開とするが、次第の「4 協議」のうち、専門員の代表による研究結果である「(1) 報告」及び「(2) 質疑」、また、「(4) 選定」、「(5)選定結果公表」については、非公開としたいが、承認いただける方は、拍手を。

### 【委 員】

《拍手多数。承認。》

### 【議 長】

拍手多数により、「4 協議」のうち「(1) 「報告」及び(2) 質疑」、また、「(4) 選定」、「(5) 選定結果公表」については、非公開とする。

また、会議の記録については、要点記録としたいがよろしいか。承認いただける方は、拍手を。

### 【委 員】

《拍手多数。承認。》

### 【傍聴者入場】

**【議 長】**

平成30年度から使用される小学校教科用図書（特別の教科 道徳）についての協議及び選定を行う。

これから非公開部分になるので、傍聴者は、退席を願う。

**【傍聴者退席】**

**【議 長】**

協議を始める。専門員の報告、学校の調査研究結果、展示会場における保護者等の意見はあくまでも参考である。採択委員の責務による公平で適正な選定が行われるよう願う。

**《小学校 特別の教科 道徳》**

(1) 代表者による報告（非公開）

(2) 質疑（非公開）

**【議 長】**

傍聴者は、入場を願う。

**【傍聴者入場】**

(3) 協議

**【議 長】**

小学校 特別の教科 道徳の教科書について意見のある方は、挙手を願う。

**【A 委員】**

道徳ノートがあると指導しやすい、教材研究に便利であるという考えには反対である。資料を読む、感想を書かせる、発表させることが道徳の時間と思い違いをしている教員もいる。ノートを軽々しく使ったのでは、思考を深める道徳からほど遠くなってしまう。評価がノートに結びついてしまうことも考えられる。書かせることに傾注するのは、子どもにも負担となり、深めたい価値が高まらないので道徳ノートを使うことには、反対したい。

**【B 委員】**

ノートがあることで、流れがしっかりできることと、経験のない教員もある程度の構成ができる。しかし、どこで考えさせ議論させるか、書くことよりもその教材で何をねらい、何を考えさせるか教材研究に力を入れることが大切。A 委員と同じ考え。

**【C 委員】**

ノートがあることにより一番最後が見えて、思考が狭くなるのではないか。自己を見つめ物事を多面的・多角的にということから、授業をつくっていく上では、担任の指導力が重要。教師が力量を身に付けないと、心の教育は進められない。

#### **【D 委員】**

道徳ノートの扱いを考えてみた。1年間の振り返りをするとき、算数・国語などのように普通のノートでも活用できると思う。ワークシート的になると学習の流れが単線となりやすい。別冊ノートを扱うかどうかは、担任、学校の扱い方によると思うので、それだけにとらわれないで全体的な中身を見て、採択したい。

#### **【議 長】**

多面的・多角的に協議を。

#### **【A 委員】**

現行の道徳の時間では、読みもの資料を使ったり、日常の事例とか、偉人の生き方等から心情を読み取り、子どもたちに道徳的価値に気づかせていくのが主流だった。しかし、教科化としての道徳の時間では、考え、議論する、あるいはアクティブラーニングにみられるように主体的・対話的で深い学びが選べる、また、体験的学習に結びつく、情報モラルの育成等が多くの発行者で様々な工夫が見られ、課題解決が図られるような構成がみられる。中でも、教育出版がよいと思った。読み物資料の後に、学びの手引きとか、ジャンプなど話し合いや思考を深めたり、発展的で体験的な学習を促す、子どもたちの深い思考や道徳的実践を促す、意欲的に課題解決を図る無理のない流れが構成されている。ノーベル物理学賞の受賞者梶田先生も取り上げている。この地区には、教育出版がふさわしい。

#### **【議 長】**

具体的に発行者の名前を挙げての意見だった。この場で、発行者の名前も出して結構。分かりやすい議論ができる。

#### **【E 委員】**

スポーツ選手、偉人が多いのは、子どもたちに夢と感動を与える。人物の生き方から学ぶことができる。8者ともそれぞれ扱いに差がないとすれば、教育出版は東松山出身の梶田先生を扱っている。北里の関係で北本市に関わる大村先生を扱っている。この地域には教育出版が適しているのではないかと思う。さらに、道徳教育の目標の1つである伝統文化の尊重、国や郷土を愛する態度については、県の資料を教育出版が一番多く扱っている。子どもたちの社会や集団との関することが比較的多いのもよい。教育出版がよいと思っている。

複数の団体から採択へのいろいろな要望があるが、公正・適正な採択に徹し、静謐な採択ができればよいと思っている。

#### **【議 長】**

授業をする先生、子どもたちのことを考えて、他にないか。

**【D 委員】**

梶田先生は魅力的であるが、大村先生がメイン。小5には難しい内容。大村先生は、他社も扱っている。魅力的だが、そこだけで決めてよいか迷ってしまう。

**【B 委員】**

何が載っているかでなく、どんなふうに道徳の授業を展開するかが大事だと思う。教科書は主たる教材なので、問題解決的な学習、多面的・多角的に考える学習をキーワードに、子どもたちが主体的に「学びたい、考えたい」と思えるような教科書を選びたい。学研は、「つかむ」「調べる」「まとめる」という問題解決的な学習の展開をわかりやすく取り入れ、考え議論する道徳となっていることがとても大事な視点だと思う。

**【F 委員】**

一番の視点は、文科省も言っている登場人物の心情の読み取りで終わらない。多面的・多角的ということ。読み物教材の羅列は避けたい。教材それぞれが違う視点、タッチ、形式などでバラエティーに富んでいるのがよい。道徳の授業は同じような繰り返しで子供たちに定着を図るというのもあるが、道徳は、いろいろなアプローチがあるので、まずは教材から。教材があまりパターン化されているものは、避けたい。そういう視点でよいと思ったのは、日本文教出版、学研がよいと思った。光文書院もバラエティーではよいと思ったが展開していくうえでは、日本文教出版がよいと思う。また、ノートについては、どちらでもよいと思う。ノートを使うのは学校や教師の選択でよい。

**【E 委員】**

梶田さんが載っているからその発行者がよいというものではない。先ほども述べたように、学習指導要領の道徳教育の目標の1つのことが一番多く入っている。挿絵について、1年生の教育出版は、紙芝居風で親しみやすく、工夫されている。いろいろよいところがある。

**【議 長】**

当面、新しい教科道徳の教科書をいろいろな角度から選定しなくてはならない。他にないか。

**【議 長】**

以上で協議を終了する。

**(4) 選定及び(5) 選定結果発表****【議 長】**

つぎに、選定及び選定結果の発表に移る。傍聴者は、退席を願う。

**【傍聴者退場】**

**【議 長】**

選定・選定結果の発表（非公開）

**【議 長】**

《協議終了》

**【傍聴者入場】**

5 諸連絡

**【事務局】**

（1）連絡

- ① 資料の取り扱いについて。
- ② 今後の事務処理。
- ③ 各市町村教育委員会での採択後、速やかに各小学校に通知。

（2）その他

6 閉 会

**【副会長】**

以上をもって、第2回第13採択地区教科用図書採択協議会を閉会する。